

文化藝術懇話会 (64)

時： 2019-03-29 (金) 18.00-20.00

所： 淡路町ワテラス・レジデンス 2011 号 (パーティ R)

人： 古田武彦 / 「邪馬台国」はなかった

○書名： 古田武彦 / 「邪馬台国」はなかった--**解説された倭人伝の謎**、朝日新聞社

*あったのは、「邪馬壹国」(やまいちこく) (紹熙本、ショウキ)

*これ以前、邪馬壹国 / 史学 78-9

1971 邪馬台国は無かった、

1973 失われた九州王朝、

1975 盗まれた神話など)

(まとめ) 僭越ですが

序章

- ・原文を改定してはならない *恩師・村岡典嗣 (1884-* 1946) (つねつぐ)
- ・筆跡の筆圧曲線
- ・学問の論証は単純であること。説得力をもち、ハッキリと理解されるもの

第一章 それは「邪馬台国」ではなかった

- ・壹 (いち) と臺 (だい)

戦争前、長澤規久也さん (1902-1980) が、上海の商務印書館で研究の際、紹興本の写真版を入手。

紹興本 (1131-1162) (しょうこう)

紹熙本 (1190-1194) (しょうき) ではなかった。*紹熙本、実は咸平本の重刻、従って紹興本より古い
焼けない文字、これは金石文の字体を調べた。両者の取りちがえは全くなかった。

三国志全体で壹は 86 個、臺は 56 個。

- ・中国の学者は、誤解、文脈の読み誤り。人名の聖「壹」を聖「臺」だろうと考えた。

しかし、長男の名前は「壹」を使っていた。

- ・**范曄 (398-445) / 後漢書 邪馬「臺」国** *陳寿の三国志が古い時代に書かれている。
- ・裴松之 (372-451) の注は、慎重。*天子の詔を奉じて諸異本を校合していた。邪馬壹を確認していたはず。
(雁註) 范曄は、邪馬壹 (やまゐ) の卑弥呼 (ひみか) を魏の臣下の王朝と位置づけ、邪馬臺と記したか。

魏略 (三国志と同時期) にも「邪馬「臺」国」は存在しなかった。

- ・臺 (だい) は魏臺 (ぎだい) のように、王朝を意味する。天子の象徴。

李賢・注：後漢書 (邪摩惟、やまい) で

北畠親房 (1293-1364) 神皇正統記で「邪麻堆」と原文を改定

瑞溪周鳳 (1392-1473) *九州説を最初に唱えた

松下見林 (1637-1703) 異称日本伝

*邪馬臺をヤマト (大和) の和訓として書いている。邪馬壹国を邪馬「臺」国と改定

臺 (ダイ) は「ト」と読めない。また臺と台は別字。

新井白石 (1657-1725) *見林を盗用 筑後山門説の創始者

白鳥庫吉 (1865-1942) 邪馬臺国 東京大学

内藤湖南 (1866-1934) 邪馬壹は邪馬臺の訛なること云々 京都大学

第二章 いわゆる「共同改定」批判

- 1 東冶 *東冶(とうや)の誤り 東冶が事実 范曄は、呉の永安三年(260)の分郡を見落としていた
永安三年以前は会稽東冶 以後、建安東冶
断髮文身、以て蛟龍の害を避く。 呉の太白
- 2 景初二年 *景初三年の誤り 景初二年が事実
明帝は景初二年十二月、崩ず 景初三年十二月、改元、正始元年
- 3 対海国 一大国 *対馬国の誤り *一支国の誤り 対海国が事実 一大国が事実
カン海 馬韓に「対」する意、

第三章 身勝手な「各個改定」への反論

南宋*(なんそう)の紹熙本 *劉祐が建国

南→東 原文改定 成立しない。

陸行一月 →陸行一日 成立しない。

榎一雄 伊都国を起点として放射状 唐代の六典によると、歩行一日五十里 *漢魏の里数
白鳥庫吉の弟子 倭人からの伝聞で逃げる

三国志 159個の里 二点間、1000-2,000里 4000-6,000里

漢(1-3世紀の里は414m 魏(3世紀)・西晋の里=75m 唐(7-10世紀の里は559m

第四章 「邪馬壹國」の探求

「階段式」読法 乍...乍 漢文では、たちまち...たちまち...

「道行」読法

最終行程0の論理

「島めぐり」読法 島(周囲)を半周

邪馬壹國の所在地

・博多湾にのぞむ平野の一角に女王の宮室があり、楼観があり、城柵が存在していた。

(雁註) 博多湾に博多、最大都市があり、かつてもそうであった。しかし、女王の宮室、楼観、城柵は、吉野ヶ里の地域ではなかったか。

・邪馬壹(やま、やめ)、つまり八女(やめ)のが中心ではなかったか。

・好古都、はかた、と読んでいる。

・奴国、「の国」

類縁地名は何処にでもあるので、地名比定を先にはならない。

卑弥呼の墓 径100歩 1里=300歩=75m 従って1歩=25cm 100歩=25m

*100歩が神聖なる墓域として適切であると考えられていた。

1 卑弥呼以前、これほど大きな墓(25mの径)はなかった

2 魏の王墓制に準じて造られた

3 古墳の原初的な存在

280s 陳寿(233-297) / 魏志

290s 魚豢(240s-290s) / 魏略 *魏略は相当、酷い改変を受けている。 *ぎょけん

660 張楚金(630s-700s) / 翰苑

奴(の、ぬ) 国: 糸島半島の前原(まえばる) および周船寺(しゅせんじ) 間の付近

- ・水行（10日行程）4,500里 1日450里=450x75=33,750m 33km
 - 魏晋朝 車駕（貴人、将吏） 1日300里=300x75=22,500m 22km
 - ・陸行（1月肯定 7,500里 1日250里=250x75=18,750m 18km
 - 歩行 1日200里=200x75=15,111m 15km
- 「2万人」奴国（福岡県の西、糸島）と「7万人」邪馬壹國（福岡県の東、博多）

第五章 「邪馬壹國」の意味するもの

壹：天子に対し二心なく、相相（まみ）える意 *五服、六服、九服の制、夷蛮統治の基準
 貳：憎悪された意

邪馬壹國（やまゐ）

委+イ=委の人の意であったが、のち「わ」の発音が生まれた

- ・漢字による原音表記の多様性のため、絶対的な確かさは保証されない。
- ・金印「漢委奴国王」：かんの・ゐど・こくおう

漢書の注：1 如淳（魏） 2 臣讚（晋） 3 顔師古（唐）

- ・如墨委面：墨は墨刑 鯨面（かおにいれずみ） 1 異面 2 倭人の顔 3 礼物を君前に致して臣となる
- ・鯨面の倭人が天子に対する礼を守り、歳時貢献している。

白石、宣長は、邪馬臺をヤマトと読み、奈良大和国とした。同音地名で、筑後山門

第六章 新しい課題

経典の翻訳に卑字は見られない。

252 康 僧鎧／大無量寿経

384-417 鳩摩羅什／阿弥陀経

424-453 晁良耶舎*／観無量寿経 きょうりょうやしゃ *劉宋

孔子の予言：中国に礼が失われても、東夷にかえってそれが伝えられる。

倭国は、九州北岸に首都をもち、朝鮮半島の南岸を領有し、朝鮮・対馬・壱岐の三海峡をつつみこむ形の海峡国家であった。

あとがき

酒井 雁高（がんこう） 学芸員 curator

浮世絵・酒井好古堂 <http://www.ukiyo-e.co.jp>

✓□浮世絵学 古田武彦 九州王朝

[浮世絵学] 文化藝術懇話会 浮世絵鑑定家

100-0006 東京都千代田区有楽町1-2-14

電話 03-3591-4678 Fax03-3591-4678

○1975 石原道博／訳註中国正史日本伝、国書刊行会

*これは史料を原典から訳した最善の本です。

*ただし、訳註は原文（影印、写真版）と違うところがあり注意を要します。

*人名、地名、官職、件名など、索引も付いている。ただし、読みは当時の発音が不確定のため、推定。

*倭、日本伝が、下記に含まれている。

3 4 5 6 7 8 14 15 13 16 17 20 23 25 26 28

1	BC91 司馬遷 (BC145c-BC86c) / 史記	前漢	シバ・セン	
	420-589 裴駟 / 史記集解	宋 (六朝)	ハイ・イン	*シツカイと読む 劉宋
	730s 司馬貞 (679-732) / 史記索陰	唐	シバ・テイ	
	736 張守節 (?-?) / 史記正義	唐	チョウ・シュセツ	
	1932-1934 瀧川龜太郎 / 史記会注考証、東方文化学院東京研究所			しきかいちゅうこうしょう
2	82 班固 (32-92) / 漢書	後漢	ハン・コ	
3	445 范曄 (398-445) / 後漢書*	南朝・宋	ハン・ヨウ	*成立は三国志の後
4	280s 陳寿 (233-297) / 三国志	西晋	チン・ジュ	
	・裴松之 (372-451) / 注	南宋	ハイ・ショウシ	
	・王沈 (?-266) / 魏書		オウ・シン	
	・魚豢 (190s-270s) / 魏略		キョ・カン	「キョ」の読み
	・韋昭 (?—273) / 吳書		イ・ショウ	
5	648 房玄齡 (578-648) / 晋書	唐	ボウ・ゲンレイ	
6	488 沈約 (441-513) / 宋書*	南朝梁	シン・ヤク	*倭の五王
7	530s 蕭子顯 (489-537) / 南齊書	南朝・梁	ショウ・シケン	
8	636 姚思廉 (?-637) / 梁書	唐	ヨウ・シレン	
9	636 姚思廉 (?-637) / 陳書	唐	ヨウ・シレン	*南朝最後の王朝
10	554 魏収 / 魏書	北齊	ギ・シュウ	
11	636 李百薬 / 北齊書	唐	リ・ヒャクヤク	
12	636 令狐德棻 / 北周書	唐	リョウコ・トクフン	
13	656 魏徵 (580-643) / 隋書*	唐	ギ・チョウ	*阿蘇山が書かれている。
14	659 李延壽 (?-?) / 南史	唐	リ・エンジュ	
15	650-683 李延壽 (?-?) / 北史	唐	リ・エンジュ	
16	945 劉昫 (887-946) / 旧唐書*	五代晋	リュウ・ク	*クトウジョ
17	1060 宋祁 (1007-1061) / 新唐書	宋	ソウ・キ	
18	974 薛居正 / 旧五代史	北宋	セツ・キョセイ	
19	1053 歐陽脩 / 新五代史	北宋	オウヨウ・シュウ	
20	1345 脱脱 (1314-1355) / 宋史	元	トクト	
21	1345 脱脱 (1314-1355) / 遼史	元	トクト	
22	1345 脱脱 (1314-1355) 金史	元	トクト	
23	1370 宋濂 (1310-1381) / 元史	明	ソウ・カン	
24*	1723 王鴻緒 (1645-1723) / 明史	清	オウ・コウショ	
24	1739 張廷玉 (1672-1755) / 明史	清	チョウ・テイギョク	
25	1919 柯邵恣 (1885-1933) / 新元史	民国	カ・ショウビン	
26	1723 王鴻緒 (1645-1723) / 明史稿	清	オウ・コウショ	

27	1927	柯邵恣 (1885-1933) / 清史稿	民国	カ・ショウビン
28	1927	趙爾巽 (1845-1927) / 清史	民国	ショウニ・ソン
28*	1960	張其□ (1900-) / 清史	民国	チョウ・キキン